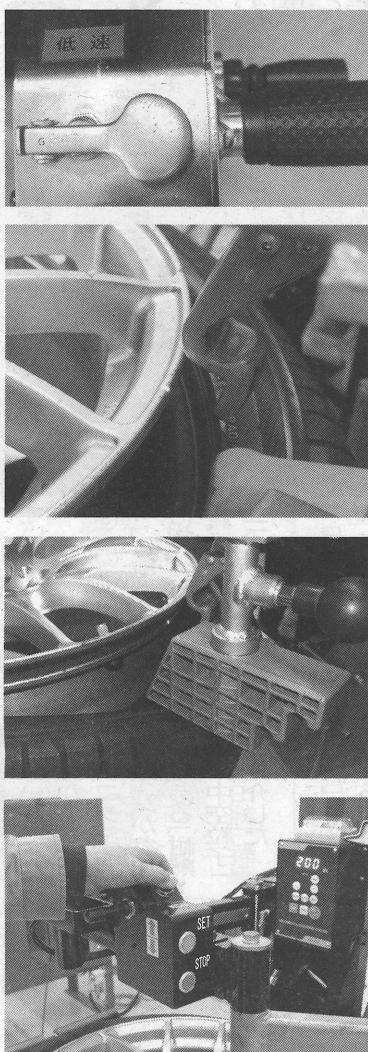


「第37回オートサービスショー2023」小野谷機工(福井県越前市)のブースでもっとも注目を集めた機器が「iota(イオタ)/iota Pro(イオタプロ)」だ。乗用車用タイヤチェンジャー「EXCEED」(エクシード)シリーズの新製品で、第9世代モデル。同社チェンジャーのフラッグシップ機種となる。そのデモンストレーションになぜ来場者が引き寄せられたのか。それは技術スキルと労力を要するレバーレス作業を、セミオート機能ならではの良さを發揮しながら難なくこなしてみせたからだ。商品開発本部サービス機器開発部部長の吉川真仁さんがあなれてくれた。

吉川さんは、「当社はレバーレス作業が可能なタイヤチェンジャーを数多くラインアップしているが、セミオート化を実現したのが新製品『イオタ/イオタプロ』と、次のように紹介する。「作業者が操作ボタンを押している間、機械が自動でレバーレス作業を行い、なにか違和感や危険を感じない」と説明する。作業の安全を維持することができる」

タイヤを脱着する前の段階でビード落とし作業を行う。「イオタ/イオタプロ」は「ハン



「『DTヘッド』を採用した。従来はそれを足元のペダルを傷付けずしっかりと固定する。テーブル回転は高速・低速の2スティック仕様を採用。エアーピードルにより自動でピタッと停止す



「DTヘッド挿入」「MP解除→AUTOスイッチ」「上↑・下↓引上げ」「ヒート確認→AUTOスイッチ」「ヒート脱

る。しかもブレーカーには「低速モード」という、刃先をジワジワと入れ込む衝撃緩和機

吉川さんはサポートアームの「DTヘッド」をセットする。従来は作業者が目視でおおよそその位置を合わせてい

軽労化と作業性の向上を両立

作業スピードや手際

「サードプレス装置」や「ホイルプレス装置」「シリンドラ昇降式アーム」など、「エクシード」(エクシード)シリーズのオリジナルとしてはヨーロピアンタイプを継承。タイヤーテーブルにタイヤヘッドは上ビードをセットする。新しい形状のチャック爪やホ

の良さをとくに重視し、セミオートレバーレスエンジニア、「エクシード」(エクシード)プロユースに

の良さをとくに重視したセミオートレバーレスエンジニア、「エクシード」(エクシード)プロユースに

の良さをとくに重視し、セミオートレバーレスエンジニア、「エクシード」(エクシード)プロユースに

ド式ビードブレーキューラーを採用した。従来はそれを足元のペダルを傷付けずしっかりと固定する。テーブル回転は高速・低速の2スティック仕様を採用。エアーピードルにより自動でピタッと停止する。

ヘッドセット後からヘッドアップ、ビード外し、マウントプレスなどのレバーレス作業はオート機能となる。ハイ

どの一連のレバーレス作業を安全で、作業者

の負担を大幅に軽減し、液体タイヤクリーナー噴射装置を「イオタ

にはオプションで、「イオタプロ」には標準で装備した。」写真右下

整備機器

新商品

小野谷機工(株)

乗用車用タイヤチェンジャー
「エクシード イオタ
/イオタプロ」

セミオートでレバーレス作業を

